

興讓館野球部OB会

会報

第 29 号

発行日/ 令和元年12月12日(木)
発行所/ 〒992-0054 米沢市城西4-4-16 井上 恭男
印刷/ ㈱羽陽印刷
0238 (23) 0467



興讓館野球部OB総会 令和元年8月15日 於 ホテルモントビュー米沢

会報29号に 寄せて



興讓館野球部OB会 会長 遠藤 敬

今年の総会で興讓館OB会会長を拝命いたしました遠藤 敬(昭和47年卒)です。はなはだ力不足ではございますが、母校野球部の健全な発展の助成とOB会員相互の親睦をより一層図りたく精一杯努めてまいります。宜しくご協力、ご指導の程お願いいたします。

近年大規模災害が多発していますが、今年も台風19号の大雨による河川氾濫の被害をはじめ大きな自然災害がありました。OB会員の皆様には、お変りなくお過ごしのことと拝察いたします。各地で被害にあわれた方々には、心からお見舞い申し上げます。

さて、野球部OB会会報第29号発刊の時期となりました。会員皆様のご協力により毎年内容のある会報が発行されています。OB会としては、予定した事業を着実に実行できたと思います。

総会については、今年もお盆期間の8月15日(木)に近年では一番多い34名の参加者で開催いたしました。事務局提案の事業計画、決算、予算、役員改選の承認をいただきました。

役員改選では、長い間多大なる貢献をされてきた小野隆夫会長が健康上の理由により顧問に、私、昭和47年度卒の遠藤 敬が会長に、昭和51年度卒の栗林雄二理事が副会長に、そして新しく昭和55年度卒の堤 和司氏が理事にそれぞれ就任いたしました。それ以外の役員については全て留任ということになりました。

総会への参加者ができるだけ多くなるようにと帰省時の8月にしてから7年目になりますが、事前の声掛けが功を奏してきたのか、若い会員の参加が増えてきています。

新年度特別会計予算に、「母校野球部からの申し出による「野球部グラウンドのスコアボード照明電源絶縁改修と電源ボックス交換工事」のOB会支援分として約60万円を組み入れを承認していただきました。野球部員の皆さんから感謝の言葉をいただきOB会としての役割を果たせた喜びを味わいました。

また、総会議案の一つに、二年

後の「2021年野球部創設120周年に向けて」がありました。記念事業はどうあるべきかなど、多方面から様々な意見・提案をいただきました。現在、「120周年記念事業実行委員会」を立ち上げ、具体性のあるものにすべく取組んでいます。あわせて来年4月に「役員及び学年代表幹事会」を開催し、多くの英知と多様な力添えをいただき、120周年記念事業を意義のあるものにしたと考えています。

今年も総会の日の午前中に、現役1・2年生とOBとの試合、そして午後はOB(現役3年生を含む)同士の試合が行われました。例年同様大学生・若手中心に多くの参加者(約50名)があり世代を超えたOB会の交流として定着しています。

今年の夏の選手権大会は鶴岡ドリムスタジアムが会場でした。昨年从小林部長(OB会員平成6年卒)さんが作成しOB会員に配布された「選手権山形大会へ向かう現役選手からのメッセージ」を片手に現役部員(3年生)7名の思い入れを感じながら応援しました。1回戦の村山産業高校に勝利し、2回戦で羽黒高校と対戦し敗れましたが、随所に興讓館野球部らしい爽やかさを感じられる試合でした。今後に大いに期待したいと思います。

最後になりますが、OB会員の皆様には年会費納入等いろいろな面でご協力をお願い申し上げます。が、是非、球場へのお越しいただき、応援の輪を広げていただきたいと思います。(令和元年11月17日記)

## ご挨拶

校長 柿崎悦子

興讓館野球部OBの皆様には、日頃より本校野球部へ物心両面にわたりご支援とご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。

今年の春季大会の1回戦は皆川球場でした。応援に向かうと、野球部員は球場の西側で試合前の調整練習をしており、主将の指示の下、きびきびとした練習で試合前の緊張感が伝わってきました。隣には、大先輩、皆川陸雄さんの顕彰碑もあります。春の若葉の木々の中に後輩たちを見守るようにはありました。顕彰碑には、数々の現役時代の記録が刻まれています。練習が終わり、部員はその側を力強く走りぬけていきました。結果は県大会出場権を得て、その県大会では1回戦で敗れました。

昨年の夏は全校応援もありましたが、今夏の選手権大会県大会では、一回戦を勝ち上がり2回戦は羽黒高校と戦い、残念ながら3回戦進出はならず全校応援はできませんでした。また、秋の県大会はまたもや羽黒高校に惜しくも二回戦で敗れました。

野球部が練習しているグラウンドの練習メニューを書く黒板に「甲子園出場！」の文字があります。私はそこに、一心に甲子園出場を目指し練習に励むよう激励文を書き足しました。心の底から願い、

その目標が叶うように工夫して練習に励み心身ともに鍛えていくことによって、それは近づいてくると伝えなかったのです。

平成27年に、米沢興讓館部活OB会連合の皆様のご尽力により「米沢興讓館部活のあゆみ」が発刊され、そこには数々の諸先輩方の活躍が記載されています。野球部のところに「米沢興讓館野球部史」編集後記よりとして以下の文があります。OBの皆様は、既に目にしていらつしやると思いますが、引用させていただきます。

『明治34年(1901年)の部創立以来百年の歴史を刻む興讓館野球部は、これまでに様々なドラマを生み出した。今その過去を振り返ってみるとそれは挫折の歴史であつたと言えよう。』

全国大会出場目前にして敗れること3度。大正13年東北六県大会の決勝で秋田中に阻まれたのを最初に、昭和11年には県大会で勝った山形中に、この時は東北3県の大会の決勝で苦杯を喫したのが2度目。そして3度目は昭和28年、東北3県の大会、準決勝で宿敵福島商に快勝して今度こそ甲子園と誰もが信じた決勝で伏兵の白石に不覚をとつた。

このうち1回でも勝つていれば、その後の興讓館の歴史が大きく変わっていたのではないかと思われるが、知何ともしがたい。それ以外にも、毎年その時々の選手が真剣に、あるいは漠然と思いつけた甲子園の夢はことごとく空しく消え去つた。こうして興讓館野球部百年の歴史は挫折の連続であつた。しかし、若い日のこの挫折を乗り越え、野球部での経験を生かして、その後

の人生を力づくよく生き抜いていったのが先輩たちの姿であり、次々に続く後輩達も同様であろう。』

今年のシーズンは終わりました。全国の同じ目標を持つ高校生たちは着々と準備をしています。興讓館野球部は、先輩方の願いも受け止めながら、「甲子園出場」という目標に向かって

努力し、来年も球場を大いに沸かせ活躍してくれるだろうと期待しているところです。

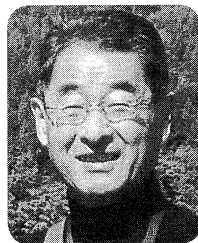
結びに、後輩達への変わらぬご支援をお願い申し上げますと共に、興讓館野球部OB会の益々のご隆盛と皆様のご健勝を祈念し、ごあいさついたします。

## 18歳への

## タイムスリップ

(昭和47年卒)

佐藤 茂



昭和47年3月卒業の佐藤(旧姓・遠藤)です。卒業してからもうすぐ50年になろうとするこの時に、OB

から市内の元中学野球部員を回つたのですが、部員を増やすことは叶わなかったのが辛い思い出です。

辛い冬期間の練習も過ぎ、春になり新1年生が入部してきて、やっと野球部らしくなつたものでした。とにかく弱かつたのですが、春季地区予選では2回戦で負けたものの、二次予選1回戦、2回戦と勝ち上がり、弱いながらも勝つことへの喜びを味わうことができたと思えています。しか

からOB会報の原稿依頼を頂き、18歳の野球部現役時代に戻るきっかけになりました。当時3年生は、主将の武田修(この春まで高畠町議会議員)、遠藤敬(現OB会の会長)、そして私の3名でした。卒業生から新チームになったときには、部員を勧誘しようと3年生3名で、北の窪田町か

し3回戦で高島に敗退し、春は終わりました。

夏に向けて練習に集中し、何とか3回戦に進もうと頑張っていた矢先、夏予選前の合宿で軽い食中毒にかかり、練習を休まざるを得なかったことが鮮明に思い出されます。それでも日ごろの練習の成果により、短期間で回復し練習を再開し、夏予選に向かいました。

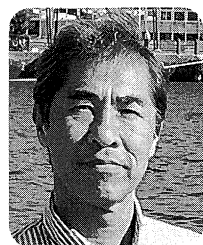
夏予選は2回戦からで、対戦は酒田東でした。雨の中での試合で、4回2対2でノーゲームとなり宿舎に戻ったことを覚えています。多少気が緩んだ時に、雨が上がり、午後から再試合の連絡が入り、球場に向かったのですが、今一つ集中できていなかったのか（はつきり覚えていない）、1回に3点、2回に2点と取られ、結局5対0で負けてしまいました。なんか力を出し切れなかった記憶がうっすらとよぎります。1点も取れずに負けたのが悔しかったなあ。

高校野球が終わり、ひと夏の間びり過ぎした後、野球で鍛えた体力で受験に立ち向かい、山大工学部で硬

式野球部に入部し、限られた時間の中で練習し再度野球に向き合うと、1年後に福大経済学部野球部に現OB会長の遠藤敬が入部してきて、南奥羽リーグで対戦出来たことは、神様のいたずらか、楽しかったことがよみがえります。大学時代は心に残るほどの戦績も無く、私は野球現役を終えました。

社会人になってから、母校野球部にそれらしい貢献も出来ていない中、自分の中では20代から今日に至るまで毎年の野球部への寄付を続けてきたことが誇りです。実際に球場に駆けつけて後輩の応援はできませんが、後輩の試合時間に気が取られる日々は、また楽しいものです。このOB会報をご覧になっていらっしゃる方で、まだ寄付をなさっていない方がおられましたら、是非お願いしたいと思います。母校の活躍が格段に楽しくなること間違いなしです。

来年の甲子園予選での母校の活躍に思いを馳せてこの原稿を終わりたいと思います。



## 「見込みがなかったら何も言わない」

(昭和47年度卒)

近野洋一

私が興讓館野球部員だったのは50年近く前のこととなります。あの頃を思い起こしてみます。

誘われるまま入部したものの全く練習についていけない毎日

先輩方の圧倒的存在感練習中にまるでウルトラマンに登場する怪獣のようなかげ声が発するK先輩(後年その声を真似てずいぶん使わせていただきました)

ノックでイレギュラーしたボールが口に当たりマスクをして試合に出場したI先輩

最初の定期テストで赤点をとって退部。七ヶ月後、主将の武田修先輩に誘われ再入部

再入部した日の練習で最後のダッシュ十本、両足ケイレン

苦手の「ロード」中郡、小野川、御成山吹雪の時

は風上側の顔半分が白くなり

叱られ怒られ練習して沈んでいると、遠藤敬先輩(現会長さんです)が「見込みがなかったら何も言わない」

合宿の夜の余興、練習でつぶれたガラガラ声で由紀さおりの『手紙』を歌ったら遠藤茂先輩が大笑い

校内マラソン、野球部は八十番(?)以内との指令(もう必死です)

Eースの宇津江君とのピッチング練習、彼の剛球を受けていつも腫れていた私の左手

高野讓先生の華麗な「一塁手の捕球フォーム」

安部周平監督の軽やかなピッチングフォーム

斎藤敬二主将はじめ様々な先輩諸氏、かわいい後輩たち

大学に進んで、野球はもういいかなと考えるながら

硬式野球部の練習をぼんやり見ていたら「野球やってみない?初心者もいるから楽しくやってみるんだ」と声をかけられ、ちよつと迷いました。こちらも頼もしい先輩方に会いました。

野球は点取りゲーム。相手に5点取られようが10点取られようが「大丈夫、大丈夫」と打ちまくって試合をひっくり返してしまふ、そんな豪快な攻撃と自称「緻密な守備」で、国公立大の地方大会で生まれて初めて「優勝」を味わいました。それまでできなかったことができるようになって野球が段違いに面白くなりました。興讓館野球部の練習を経て野球を続けたからたどり着けたことだと思えます。野球の面白さは尽きることなく、長いこと社会人野球も楽しませていただきました。

「見込みがなかったら何も言わない」は、その後似たような状況になると思い浮かんで来て、忘れられない言葉になりました。

平成24年には息子が興讓館野球部に入部し、今度は

保護者としてお世話になりました。改めて感謝いたします。

現役の生徒諸君には、練



## 当時を

### 振り返りながら

(昭和52年卒)

嶋津 昭博

当時のグラウンドは、現在のアクティ米沢になっています。東側に柔道場、テニスコート、西側に、野球部とサッカー部と陸上部が重なるように練習していました。

ボールが当たらないよう声をかけ、あるときは、サッカー部優先、陸上部優先と配慮しながら練習していたのを覚えています。

野球部は、甲子園をめざすということもなく、皆それぞれ考えも違い個性あふれる部だったと思います。

夏の甲子園をめざす予選は、秋田と山形か宮城と山形、県の代表と試合し勝利チームがやっと甲子園にいけるということになっていました。3年のときようやく1県1校になって山形

習で自分の力を高めて、試合で勝負を楽しんで、目標に突き進んでほしいと思います。応援しています。

で、優勝となれば即甲子園に出場できることになりました。

神保敦君は、投手で山形県選抜のバッテリー講習会でも県一の投手と評判でした。興讓館の運動部でも応援団も先生方も期待度が上がるのも分かります。全校応援になっていくのです。亡き岩見キャプテンの奮闘で勝つ野球になりました。

秋の2年生の県大会で日大山形に準決勝で敗退、3年の春の県大会準決勝で、また、日大山形に敗退したため打倒日大山形です。

春の休みは、千葉の館山合宿。そこで安房高校との練習試合もさせていただきました。その年、安房高校は夏の千葉県大会決勝まで勝ちあがっています。

当時阪神タイガースのコーチをなさった皆川睦雄さんが来校されました。

野球の基本キャッチボールの仕方をコーチしていただきました。今考えると本当に幸運でありました。ボールとバットをいただいたと思います。

その期待の中、夏の甲子園予選の山形大会はシードされ、2回戦からでありました。練習試合で勝っていた寒河江高校に初戦で敗退してしまいます。全校応援をしていただいたの敗戦は、苦い経験でした。

今、61歳になり深く思います。大学に進学してやりたい目標などあれば別ですが、勉学と野球は大変なことではありましたが、個人競技では解りえない経験をします。大学に進学したあとも野球を続けてもらいたいと個人的には思います。私はしませんでしたので、今、後悔しています。

大学生活では、意欲的に取り組んだものがなくなるとなく過ごしてしまいました。

健康で、好きな野球ができる幸せを感じ、後輩の皆

さんには楽しく、勉学と、野球に勤しんでいただけただけから幸いです。

野球部の顧問の先生監督、保護者の皆さん、米沢



## 野球とあまり

### 関わりないところで

(平成元年度卒)

鈴木 雅満

野球部OB会報の原稿依頼を受けたのは2回目、前回は平成16年だったようです。それまで全くOB会総会などに顔を出しておらず(会費は納めていたのですが)は把握されていたようです)、大変恐縮して書いておきますが、その後、平成24年の春に、私が高校生のときの監督だった小野隆夫先生から連絡があり、同級生の中で私を学年代表に決めた、会議をやるから出席しなさい、とのこと。

その年は総会にも初めて出席し、以来総会だけは出席して先輩方や後輩達と会うことができています。

現在の勤務先は村山総合支庁で、そこは隣りに山形中央高校があり、野球部の

興讓館高等学校OB会の皆さんには、日ごろのご尽力に感謝いたします。ありがとうございました。

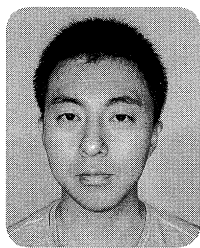
練習の様子も見えます。私は10年前くらいにも村山総合支庁勤務があったのですが、そのころはまだ山形中央は今のよう甲子園の常連ではありませんでした。久し振りに見ても感じたことは、10年前より平均して体格が大きくなったことです。たまにちらつと見る限り練習の内容は違うようには思いませんが。

今年の仕事の内容は、これまで長くやっていた農業指導と全く違い、すっかり中年のおじさんになってから分らないことばかりで、非常につらい日々を送っています。冗談でなく本当なんです。ブラック企業とか、うつ病とか(まだなっていませんが)実感と

してよくわかるようになってしまいました。

今年に限ったことではありませんが、母校の試合にも結局行けず、楽隠居を夢見る日々……あと十年以上働けと言われ、それでも年金は数年出ない……自分でもだいぶおかしいと感じてきました。さすがに。

話は変わって。私の実家は川西町堀金で米沢市との境界付近で市内中心部から10キロくらいあるのですが、先祖は江戸時代に薬売りをして全国を旅していたとのこと。若い頃は関心がなかったのですが、薬売りは忍びの者の定番で、私は上杉家の忍者の末裔か？現在、上杉謙信公が女性と



## 私と野球

(平成16年度卒)

高橋直也

私がこの原稿に苦戦しているところ、プレミア12で日本代表が10年ぶりに世界一の座を勝ち取り、令和最初の野球シーズンは幕を閉じました。スポーツニュース

いう設定の歴史漫画が連載中で、単行本だけは買って興味深く読んでいます。忍者ならその辺の真偽についても何か証拠を持っていそうですが、とりあえず何もありません。

今年の仕事もそうですが、これまでも命を取られるんじゃないかと思うようなこともあり(本当です)、それでもこうして生きているのは野球部の経験があったから、と言いたいところですが、野球のない高校生活の経験がないからわかりません。ただ、やっぱり野球をやっていた日々は楽しかったのかなあ、と思うこの頃です。

では、FA移籍や契約更改などについて報じられています。個人的には、某番組のプロ野球選手100人が各分野で今シーズン最も優れた選手を選ぶ企画を毎

年楽しみにしています。

私は、高校を卒業して今年で15年が経ち、34歳になりましたが、今でも野球を続けています。野球を始めるときは、小学校4年生の時、仲の良い友人に誘われ、スポーツ少年団に入ったことです。特別に野球が好きだったわけでもなく、何となく始めたのだと思います。以来約25年間、上下関係やその中の立ち居振る舞い、自己犠牲の精神など様々なことを野球を通じて学んできました。道具を大切にすること、道も、野球をする中で習慣として身についたものです。グラブやスパイクの汚れを落とし、オイルを塗り、磨き上げ、自分だけのものにしていく作業は、地味ですが、日頃の積み重ねや準備の大切さを感じられるものだと思います。あくまでも個人的なイメージですが、野球は、他のスポーツに比べて、小さいころから道具の手入れを大切にしているイメージがあります。そのおかげか、毎日仕事に履いていく革靴も、定期的に手

入れをするのが苦ではなく、きれいに艶が出ると気分転換にすらなるものです。

一方で、野球の試合のことは、全くと言っていいほど記憶にありません。よく、試合展開をインニングやアウトカウント、打者やランナーの状況まで憶えている、「あの時お前が……」などと思いつく人がいますが、本当に感心します。年数が経ったから覚えていないのではなく、薄情だからではありません。ただ、あまり考えて野球をしていなかったのだと思います。今でもそれは変わっていません。

高校を卒業し、大学に進学してからは、もう野球はしないと決まっていた。大学3年になった頃、大学の友人が新しく草野球チームを作るといので、そのメンバーとして久しぶり野球をすることにしました。最初、ろくに練習もせず、近くの大学の野球部と試合をしたところ、ボロボロに負けたため、1年後にそのチームに勝つという目標を掲げ、チームが動き出

しました。

チームには野球未経験者も多数いたため、経験者が教えながら練習を重ねていくのですが、未経験者というだけあって、目に見える形で驚くほど上達していくので、自分以外の他人が上達していくことに喜びを感じられる貴重な体験ができました。

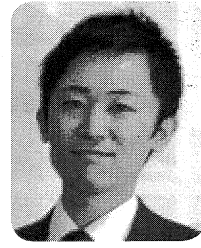
そして1年後、目標としていたチームと再戦し、見事勝利を収めることができました。自分たちでゼロからスタートさせたチームということもあり、目標達成の満足感、充実感は格別なものがありました。

結局、社会人になっても、身近に野球ができる環境があり、今でも続けています。野球の良いところは、日本中どこにいてもやれる環境が大体あること、歳をとって走れなくても、太っても、それなりにできることです。後輩たちには、ぜひ、高校を卒業してからも、細々とでも、遊びでも構わないので、野球を続けてほしいと願います。いろんな場所で、楽しい野球や新し

い仲間に出会えると思いません。

よくわからないうちに内容になってしまいました。乱文

乱筆にて失礼いたしました。月並みですが、興讓館野球部のますますの活躍を期待しています。



## 近況報告

(平成18年度卒)

神保光貴

先日、毎年恒例のOB戦・OB会総会に出席して参りました。OB戦には、私共の学年からは幹事学年として数名が邪魔いたしました。先日夏の大会を終えたばかりの3年生や大学生の生きたボールに相対し、こちらもまだ老け込む歳ではないと立ち向かつてはみるのですが、やはり日頃の練習量の差は歴然で、前に飛ばすのが精一杯といった具合でした。私は現在、専ら軟式野球と関わる程度であるため、現役当時にはよくもこんなにも重いバットと重く硬いボールでプレーしたものだと感じささいました。

また、夕方からの総会におかれましては、ご参会の大先輩方の思い出話を拝聴

し、それぞれにプレーした時代やグラウンドの場所は違えど、皆さん一様に現役当時の思い出をいきいきとお話されていたことが印象的でした。きつと3年間真摯に野球に打ち込んでこられたからこそ、以心伝心の共通の充実感と達成感があり、またそれが現役引退後の人となりや形作っておられるものと感じました。

2021年に母校野球部は創部120周年の記念すべき節目を迎えます。その折には、世代を超えて各々の思い出を語らうような盛大な総会となりますことを期待しております。

さて、話は変わり、近頃気になる話題についてですが、高野連では2020年春のセンバツ大会から一人

の投手の投球数を1週間に500球以内に制限する、というルールの創設に向けた議論がなされているようです(2019年11月中旬現在)。一週間に公式戦で500球を投げる投手がどれほどの人数いるのかということはさておき、選手が身体のケアや怪我の予防を意識するようなルールの整備が進められることに賛同します。高校野球はもちろんのこと、草野球や単なるキャッチボールであっても、身体に痛みがあると野球に対するモチベーションは半減してしまうものです。必ずしも試合の勝敗が最重要視されるのではなく、選手寿命を延ばし、純粹に野球を楽しむ(＝上達できる機会を得る)ための環境づくりが今後もなされることに、いち野球ファンとして期待しています。(余談ですが、今年のプロ野球界では、「沢村賞」の受賞者が19年ぶり4度目の該当者なし(選考基準のうち完投数と投球イニング数があまりに少ないとの見方によるもの)となりました。このことはQS率の重視な

ど、セイバーメトリクス全盛の時代において、選手の評価基準が変わった影響等があるようですが、選手の故障防止への意識が高まっている結果とも言えるのかもしれません。

最後になりますが、OB会の皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしますとともに、現役選手の皆さんのご活躍を陰ながら応援しております。頑張ってください。



## 興讓館野球部で

学んだこと

(平成18年度卒)

船山遼一

この度、米沢興讓館野球部のOB会会報の原稿依頼をいただき、大変光栄に思っております。恐縮ではございますが、書かせていただくことにしました。

原稿を書き始める前に、過去に先輩方がお書きになった内容を確認することにしました。すると実家に置いてある思い出の品を詰め込んだ箱の中に、なんと自分が高校3年生の時の会報を見つけたことができました。諸先輩方や、当時の保護者会長高橋由紀男様、吉田大治監督がお書きになった文章を読んでいくと、当時の懐かしい記憶がよみがえってきました。

最後になりますが、OB会の皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしますとともに、現役選手の皆さんのご活躍を陰ながら応援しております。頑張ってください。

当時は、入部するとすぐに、興讓館野球部の練習の質の高さに圧倒されました。一球一球にかけ思い、集中心力、効率を重視した練習メニュー、部員同士互いに改善点を厳しく指摘し合える関係性など、今振り返ってみても興讓館野球部でしか学べないことばかりだったように感じます。投手をしていた私は、毎日、見様見真似で先輩方のトレーニングについていくのに必死でした。

同年の仲間たちは、公式戦に出るチャンスをつかめずにいる選手が多かったのですが、特に私は、精神的にも未熟で、当時の吉田

監督からたくさんのご指導をいただきました。監督が練習にいらつしやると、10分後には監督のそばに直立した船山がいる。そのようなイメージだったかと思えます。その都度、「今後は：していきます！」などと立派なことを口にするものの、何度も同じような失敗を繰り返す日々でした。

そんな私に対して、監督は粘り強く熱心に指導してくださいました。期待し続けてくださいました。また、先輩や同級生、後輩たち、両親など、周囲の方々にも恵まれ、たくさんのお言葉や励ましをいただきました。そのおかげで、1つ1つのアウトを取ったときの喜び、好プレーができた時の達成感、勝利したときの感動など、かけがえのない経験を積み重ねていただきました。周囲の期待に応えることができたのは数えるほどしかなかったのですが、何とか3年間、高校野球を全うすることができました。現在は、中学校の数学科の教員として、サッカー部の顧問をさせていただいています。競技、校種は違って

も、目指す部活動の姿は興讓館野球部です。目標には程遠いのが現状ですが、勝利を目指すことはもちろん、それ以上に人間としての成長を促すことを大切にしていければと考えています。また、高校時代に思いついた野球に打ち込むことができたのは、OB会の皆様のご支援があったからです。その恩返しとして、今

## 8割力

日頃から米沢興讓館高校野球部にご支援・ご協力いただきありがとうございます。3年生を代表しOBの皆様への感謝を申し上げますとともに、興讓館高校での野球を通して学んだことを綴らせていただきます。

私は4つ上の兄にあこがれて野球部への入部を決めました。入部当初は肉体的・精神的にも未熟で、練習についていくので精一杯でしたが、先生方・先輩方からご指導をいただき徐々に成長する

後もOB会の皆様の力になれるよう、努力していきたいと思います。

最後になりますが、この度のOB会会報に寄稿する機会をいただいたことに感謝申し上げます。また、興讓館野球部、およびOB会の益々の発展を祈念いたしまして、終わりの言葉とさせていただきます。誠にありがとうございました。

前主将

### 武井 作斗

ことができました。また先輩方の貴重な高校野球の時間を一緒に経験させていただいたことで、高校野球の楽しさ・厳しさを学び、それが今後の活動に向けての糧となりました。

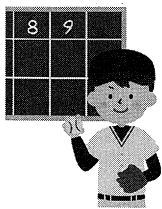
最上級生になり益々野球部員としての自覚が出て、野球はもろろんのこと、日常生活に対しても目を向けて生活をしてきました。我々は日頃からお世話になつていられる学校関係者の皆様に感謝を示すため、また野球部を応援していただ

るよう、落ち葉清掃や冬季間の除雪・交通整備に取り組み、さらには気持ちのいい挨拶をするようにも心掛けました。このような活動を3年生が中心となって取り組んだことで、学年団の先生方には、夏の大会での学年有志応援を計画していただきました。さらに、大会期間中にはOBの皆様からのご支援を受け、素晴らしい環境の中で戦い抜くことができました。結果としては、2回戦で前年度優勝校羽黒高校に負けてしまいました。最高舞台で、

たくさんの方々の応援の中で試合ができ、この上ない感動と経験をすることができました。さて、見出しにある「8割力」についての説明をさせていただきます。私たちが3年生は新チーム発足当時から「一所懸命」を掲げ、ひたすら野球に打ち込んできました。しかし、春季県大会での山形中央戦で敗戦し、このままでは勝てないと感じ、何かを変えようとチームで考えました。そこで先生方からの提案もあり、テーマを「一所懸命」

から「8割力」に変えました。これには、ただ全力でプレーをするのではなく、2割の余裕をもって取り組み、もうという考えとともに「興讓館らしい野球」をしようという意味が込められています。これがきっかけでチームの考え方や選手を取り組む姿勢が変わり、より一層チーム力が高まりました。

最後になりますが、私たち3年生は、入部してから引退するまでの長い間OBの皆様をはじめ、多くの方々からご支援・ご協力いただき野球をつづけることができました。興讓館高校野球部での経験は私たちにとってかけがえのない大切なものです。それらを今後の人生で大いに生かせるようこれからも頑張つて参ります。そしてこれからはOBの立場として後輩たち、そして将来の興讓館野球部を全力で応援します。



# 新元号で臨んだシーズンを振り返って

監督 吉田 真悟

平成最後、そして令和最初という記念すべきシーズンも多くの方々の支えの中で、終えることができました。昨年度は夏の大会では5年ぶりの3回戦進出という、前監督の多田先生の財産で何とか結果を残すことができました。しかし、今年度は例年以上の戦力を整えながらも、善戦したとはいえ、2回戦敗退と悔しい結果となりました。来年度は東京オリンピックが開催される記念すべき年です。来年度こそは、最大目標である「甲子園で校歌を歌う」ことを実現できるよう、これから冬の鍛錬期で選手と一緒に心身ともに成長していきます。

今年度のチーム体制は、部長にOBである小林健也(平成6年卒)、顧問に三上桂の3名で指導しております。併せて、昨年度より継続して専属のトレーナー(黒田洋)にも付いていただき、心技体全てでレベルアップできる環境です。また、昨年度まで6年間指導していただいた五十嵐雄大先生は母校である鶴岡南高校に転勤となり、野球部顧問として活躍しています。引退した3年生は選手7名、2年生は選手7名とマネージャー2名、1年生は選手8名とマネージャー2名となっており、現在は1、2年で選手15名、マネージャー4名で来シーズンでの活躍をイメージしながら、基本練習、体力づくりに励んでおります。また、昨年度の主将武井作斗同様、エースの渡部大晟(米沢四)が令和元年度山形県高等学校野球連盟強化指定選手(県選抜選手)に選ばれました。他校の主力選手とともに大学生や社会人のレベルの高い野球を体感し、チームに多くのことを持ち帰ってきてくれるはず(今年度ドラフトで指名された伊藤海斗(酒田南)とも指名後に対戦させていただきました。ヒットを打たれましたが...)。

## 米沢興讓館高校野球部

【目 的】

Win the respect!

【目 標】

甲子園で校歌を歌う

【チームテーマ】 8割力

【学年テーマ】 凡事徹底

## 【令和元年春季大会】

《地区大会》

○対米沢商業 8-17

準決勝

対長井 1-14

※県大会出場

《県大会》 1回戦

対山形中央 1-8

(7回コールド)

## 【令和元年甲子園予選山形県大会】

1回戦

対村山産業 2-1

2回戦

対羽黒 2-19

(8回コールド)

## 【令和元年秋季大会】

《地区大会》

○1次予選 2回戦

対米沢商業 8-10

代表決定戦

対米沢中央 1-3

○2次予選 代表決定戦

対長井 12-2

(6回コールド)

《県大会》

1回戦

対山形東 4-2

2回戦

対羽黒 0-8

(7回コールド)

## 【1年生大会】

※米沢東高校と合同

《地区大会》

○1リーグ戦

対米沢中央 2-10

対南陽・長工・置農

11-4

○代表決定戦

対米工 0-9

自分の進路実現に向けて、現在猛勉強中です。野球同様、勉強も好きになっていくはずですので、来春は自分の思い描いた姿になっていると期待しているところです。

## 【追記】

OB会や保護者会の皆さま、皆様のご尽力のおかげで、昨年度野球場の内野の土を入れ替え、整備をしていただきました。昨年1年かけてようやく土も馴染み、今年度は1年間を通してイレギュラー等での怪我がほとんどなく、万全の状態で各大会に臨むことができました。恐怖心がなく、打球に飛び込んでいける環境は、守備力を劇的に上げてくれました。また、お迎えした相手チームの指導者からも、非常に良いグラウンドだと毎回褒めていただいております。風雨で土が流されることもありますが、黒土や砂を補充しながら、この恵まれた環境を維持していきたいと考えております。ぜひ、お時間があるときにグラウンドに足を運んでいただき、選手と一緒に練習に参加してみてください。



令和元年8月15日に開催された、OB戦の案内を掲載させていただきました。  
 今後も、同様の要項により、継続開催を企画しております。  
 主旨に賛同いただき、OB多数の参加をよろしくお願い致します。

## 令和元年度 米沢興讓館高校野球部OB戦について

盛夏の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、8月15日に毎年恒例となっております興讓館高校野球部OB会総会及びOB戦が行われます。OBの皆様におかれましてはご多忙の中かと思いますが、白球を追っていた青春時代を思い出し、世代を越えた交流ができればと考えております。つきましては同級生、先輩、後輩お誘いあわせの上参加いただければと思います。

### 内 容

午前：1・2年生との試合（大学生の方を中心に参加いただけると幸いです。）  
 午後：OB同士の試合（1打席のみ、守備のみなどの参加も可能です。）

### 日 程

9：00 1・2年生 プレイボール  
 12：30 参加者集合（チーム分け）  
 13：00 開会行事  
     1. 開会のあいさつ  
     2. OB会長あいさつ  
     3. 現役選手あいさつ（新チーム主将）  
     4. 記念品贈呈  
 13：30 始球式（OB会長）  
     OB戦  
 16：00 閉会行事（記念写真撮影）  
 18：15 OB会総会 於：モンテビュー米沢（ぜひご参加ください）

参加を希望されるOBの方は下記幹事までお電話、メール等を通じて①お名前②卒業年度をご連絡ください。また、昼食を500円で準備いたします。希望される方は申込時にお伝えください。

なお、参加料は徴収いたしません。毎年審判、補助役員をしてくれる母校後輩に試合球を贈呈しています。つきましては試合球代として社会人1,000円大学生500円ご協力をいただければ幸いです。

令和元年度OB戦幹事（平成28年度より3学年周り番で担当しています）

船山 遼一（平成18年卒）電話：090-3758-3996

青木 貴志（平成23年卒）電話：080-1656-4339

小林 哲也（平成28年卒）電話：080-8210-4777



学年代表幹事

卒業年	氏名
S44	布川裕行
S45	高梨衛
S46	永井隆
S47	遠藤敬
S48	宇津江信彦
S49	池内正一
S50	竹俣兼一
S51	栗林雄二
S52	大河原敦
S53	井上恭男
S54	大越路可
S55	後藤利明
S56	山田和男
S57	大武義孝
S58	中沢秀隆
S59	吉田直史
S60	菅原浩
S61	後藤篤也
S62	井上武司
S63	村田和彦
H1	鈴木雅満
H2	渡部晃央
H3	斉藤真徳
H4	地主忠亮
H5	吉田大治
H6	小林健也
H7	井上友和
H8	金沢凡子
H9	遠藤謙司
H10	相田洋一
H11	齋藤慎太郎
H12	丸山信輔
H13	鈴木宏治
H14	嘉藤之浩
H15	佐藤勝治
H16	戸田怜
H17	小野裕介
H18	淀川竜也
H19	菅野英志
H20	福嶋なつみ
H21	土屋岳
H22	井上尚人
H23	小関直紀
H24	神保智貴
H25	歌丸裕彬
H26	渡部晃史
H27	土屋賢
H28	小林哲也
H29	梅津謙吾
H30	鈴木耕太郎

令和元年度米沢興讓館高等学校野球部名簿

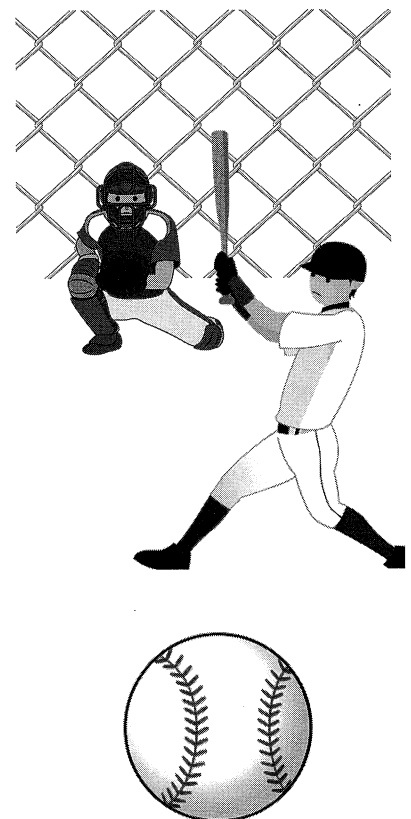
監督:吉田真悟 部長:小林健也 顧問:三上桂  
 トレーナー:黒田洋

学年	氏名	出身校	学年	氏名	出身校	学年	氏名	出身校	
1	3年	油井陸斗	米沢一	2年	近野真弘	米沢四	1年	太田和佳	南原
2	3年	齋藤創太	米沢五	2年	高橋暖人	川西	1年	佐藤琉光	米沢二
3	3年	佐藤優樹	米沢四	2年	渡部大晟	米沢四	1年	地主修平	米沢四
4	3年	戸田晃平	米沢五	2年	中沢来那	米沢五	1年	西山幹太	赤湯
5	3年	原田峻介	高畠	2年	遠藤直英	白鷹	1年	梅津愛佳	米沢四
6	3年	原州平	米沢六	2年	大内駿輔	米沢一	1年	田中瞭賀	米沢三
7	3年	武井作斗	米沢二	2年	玄番小次郎	南原	1年	鈴木啓太	米沢三
8				2年	杉浦拓都	米沢三	1年	柴田恭平	高畠
9				2年	情野太陽	米沢二	1年	高橋大輝	米沢六
10							1年	森玄	赤湯

野球部OB会役員紹介

令和元年度~令和2年度

役員名	氏名	卒業年
顧問	駒形衛	S25
顧問	高野讓	S29
顧問	小野隆夫	S34
会長	遠藤敬	S47
副会長	栗林雄二	S51
兼事務局長	井上恭男	S53
理事	荒澤芳治	S54
理事	大越路可	S54
理事	堤和司	S55
兼事務局補助	我妻弘一	S61
理事	吉田大治	H5
理事	佐藤勝治	H15
理事	小野裕介	H17
監事	安達治雄	S33
監事	齋藤隆志	S42



事務局より

令和元年度

# 米沢興讓館野球部OB会総会

今年も、令和元年度総会をお盆の8月15日(木)に開催されました。多くの会員方が足を運べる時期と考えてのことでありますが、今年度は34名の出席者でありました。今後とも当分の間継続し、多くの会員の出席をいただけるよう事務局としても努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。総会にて平成30年度決算及び令和元年度事業計画等承認されましたので、滞りなく事業を粛々と進めてまいりたいと思います。

## 令和元年度 予算書

自：令和元年7月1日 至：令和2年6月30日

一般会計

単位：円

収入の部			支出の部		
科目	予算額	摘要	科目	予算額	摘要
前年度繰越金	187,689	郵貯 81,274 信金 106,415	総会費	200,000	8月15日 ホテルモントビュ-米沢
維持会費	800,000	1口 5,000円 160口	総会準備費	170,000	総会案内等 当日総会資料印刷 記念写真郵送等
卒業生入会金	21,000	R1年度 卒業生 7名	学年代表理事会費	100,000	第4回 開催予定
総会会費	200,000	総会当日会費 40名参加	激励費	40,000	激励金 OB靴差し入れ 保護者会祝金
役員会	60,000	年3回予定	活動支援費	150,000	活動援助金
預金利息	11		会報発行費	170,000	会報印刷費 原稿依頼費用等
			OB連合会関係費	50,000	負担金 総会参加費 案内状等
			特別積立金	100,000	特別会計に積立
			役員会議費	120,000	年3回予定
			郵便為替手数料	30,000	郵便為替払込料 印字サービス料
			事務用品費	20,000	タックシール・ト ナー等 長3封筒 用紙等
			備品費	20,000	応援グッズ (帽子)
			次期繰越金	98,700	
合計	1,268,700		合計	1,268,700	

特別会計

単位：円

収入の部			支出の部		
科目	予算額	摘要	科目	予算額	摘要
前年度繰越金	1,655,407		取崩額	600,000	電気設備等整備資金
特別積立金	100,000		次期繰越金	1,205,420	①
卒業生貸付金	50,000				
預金利息	13				
合計	1,805,420		合計	1,805,420	

卒業生貸付金 (2口)

単位：円

科目	金額	備考
H22年度卒業生	50,000	
合計	50,000	②

特別積立金+卒業生貸付金	次期繰越金	1,255,420	(①+②)
--------------	-------	-----------	-------

## 平成30年度 収支決算書

自：平成30年7月1日 至：令和元年6月30日

一般会計

単位：円

収入の部			支出の部		
科目	決算額	摘要	科目	決算額	摘要
前年度繰越金	289,008	郵貯 35,174 信金 253,834	総会費	123,701	8月15日 ホテルモントビュ-米沢
維持会費	715,000	1口 5,000円 77名 143口	総会準備費	170,338	総会案内等 当日総会資料印刷 記念写真郵送等
卒業生入会金	33,000	H30年度 卒業生 11名	激励費	17,458	OB靴差し入れ 保護者会祝金
総会会費	120,000	総会当日会費 24名参加	活動支援費	150,000	活動援助金
役員会	75,000	7月6日 志ん柳 12月18日 鳥勝 6月21日 沼淵苑	会報発行費	170,290	会報印刷費 原稿依頼費用等
雑費	500	通信費	OB連合会関係費	46,148	負担金 総会参加費 案内状 引継ぎ OB連合総会
預金利息	2	9月10日 1 3月10日 1	特別積立金	100,000	特別会計に積立 6月20日
			役員会議費	136,272	7月6日 志ん柳 12月 18日 鳥勝 6月21日 沼淵苑 案内状等
			郵便為替手数料	9,400	郵便為替払込料 印字サービス料
			事務用品費	111,214	タックシール・ト ナー等 長3封筒 用紙 (3年分)
			慶弔費	10,000	お見舞い
			次期繰越金	187,689	郵貯 81,274 信金 106,415
合計	1,232,510		合計	1,232,510	

特別会計

単位：円

収入の部			支出の部		
科目	決算額	摘要	科目	決算額	摘要
前年度繰越金	1,457,395		取崩額	0	
特別積立金	100,000	6月18日	次期繰越金	1,655,407	①
卒業生貸付金	98,000				
預金利息	12	10月1日 6 04月1日 6			
合計	1,655,407		合計	1,655,407	

卒業生貸付金 (2口)

単位：円

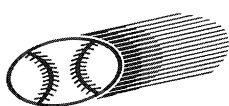
科目	金額	備考
H22年度卒業生	100,000	
H23年度卒業生	98,000	全額回収
合計	198,000	②

特別積立金+卒業生貸付金	次期繰越金	1,755,407	(①+②)
--------------	-------	-----------	-------

上記、収支決算について帳簿等を監査の結果、その内容は正確であり適正であったことを認めます。

令和1年7月23日

監事 安達 昭 功 (印) 監事 齋藤 隆 志 (印)



Baseball

米沢興讓館高等学校校歌



作詞 浜田 廣介  
作曲 細谷 一郎

明るく 希望にみちて(M.M. ♩=84前後に)

Musical score for the school song with lyrics in Japanese. The lyrics are: 1. だいてんのあづまをみればあ、おぞらにたたなわーるく、もしろくのぞみぞそーるあ、あーこうじょうこうじょうのわれらがむねに

一、大嶺の吾妻を見れば  
青空にたなわる  
雲白く望みぞそる  
ああ興讓 興讓のわれらが胸に

二、わが校の歴史は古く  
人あまたあと継ぎて  
業につき努めをなせり  
ああ興讓 興讓のわれらも励め

三、人みなを命をあげめ  
わが力わが誠  
世のために尽くさんこれぞ  
ああ興讓 興讓のわれらが心

平成30年度 OB会会費納入者

(令和元年6月30日現在) (50音順)

5,000円	10,000円	25,000円
小林 徳 勇	木村 尚 武	袖山 修
齋藤 勇	桑島 敏 行	20,000円
笹木 覚	小関 武 宏	太田 浩
佐藤 勝 治	小林 健 也	川野部雄二
佐藤 隼 平	近野 洋 一	栗林 雄 二
柴田 賢 治	齋藤 良 一	佐藤 茂
嶋津 昭 博	酒井 功	菅原 浩
嶋津 厚 史	佐藤 啓 明	福田 英 寿
嶋貫 昌 博	嶋貫 仁 一	山川 広 治
鈴木 雅 満	鈴木 四 朗	我妻 弘 一
鈴木 涉	高山 忠	渡辺 孝 一
情野 亮	長谷部大典	15,000円
添川 清 貴	船山 仁	小野 隆 夫
園田 直 子	山口 弘	川村 博 人
高梨 衛	5,000円	菅野 武 巳
高橋 憲 治	池内 正 一	齋藤 隆 志
土田 武 雄	伊藤 亮 平	鈴木 利 実
土屋 岳	井上 武 司	高野 讓
堤 和 司	井上 英 雄	古川 愛 一 郎
丸田 義 弘	江川 栄 助	10,000円
山田 和 男	遠藤 俊 弥	安達 治 雄
山田 思 美	遠藤 昌 雄	五十嵐俊隆
山村 寿 雄	大友 登 貴 子	井上 寛
山村 嘉 弘	嘉藤 之 浩	井上 恭 男
吉田 直 史	栗田 明 宙	遠藤 敬
吉田 大 治	後藤 彰 三	大越 路 可
渡部 邦 夫	後藤 利 明	大 武 清 夫

編集後記

今年度の維持会費の納入に  
関しては、現在のところ、令  
和元年度予算の維持会費予定  
納入額を大幅に下回っており  
ます。  
本会の維持会費につきまし  
ては、ご承知の通り、  
一口五、〇〇〇円  
になっておりますが、是非と  
も多数口でのご協力を是非お  
願いしたいと思います。  
また、今まで一度も納入い  
ただけなかった会員の皆様は  
は、なにとぞ一口でもご協力  
いただきたくお願い申し上げ  
ます。  
同封の振込用紙で、お早目  
の納入をくださるようお願い  
いたします。

おかげさまで、今年度  
も会報を予定通り 会員  
皆様にお送りすることが  
できました。  
この度も貴重なご寄稿  
をいただいた会員各位に  
は深く感謝致すところで  
はあります。  
事業報告として、今年  
度も8月15日に実行委員  
の方々の協力の下、OB  
戦を開催することができ  
ました。来年も同様の要  
項で開催したいと考えて  
おりますので、奮って参  
加していただき、併せて、  
総会で旧交を温め合っ  
ていただきたいと思います。  
定時総会におきまして  
は、参加者の割合は、平  
成卒業OBが昭和卒業OB  
を上回り、一段と活気

事務局  
〒992-10054  
米沢市城西4-4-16  
井上 恭 男  
メールアドレス  
yasuo330@beige.plala.  
or.jp

